令和6年3月

令和5年度　加古川市立神野小学校　学校評価（学校自己評価）

1　教育目標	「自ら学ぶこころ豊かな神野っ子の育成～夢が語り合える学校」

2　めざす児童像

・よく考える子　・・・学びの楽しさやわかる喜びを体感し、自ら考え表現する子ども
・助け合う子　　・・・互いに認め合い、励まし合う　思いやりのある子ども
・たくましい子　・・・心身ともに健康で、たくましい気力と実践力を備えた子ども

評価基準A:達成している　B:概ね達成してる　C:あまり達成していない　D:達していない　E:わからない

分野	評価項目	学校自己評価		関係者評価
		達成状況	改善の方策	
よく考える子	・「できる学力」となる基礎・基本の定着を図るための継続的な指導 ・協同的探究学習を核とした「わかる学力」の授業実践 ・一人一台端末を効果的に活用した学習活動の推進	B	・課題にせまる発問や、児童の発言をつなげる言葉がけについて研究を深め、「わかる学力」を高めるための協同的探究学習を取り入れた教育実践に取り組む。 ・学習端末を日常的に活用し個別最適な学びに活かすようにする。	今後も研究を重ね、「わかる学力」向上に向けた授業実践に取り組んでもらいたい。また、児童自身が思いを発信できる環境を大切にし、楽しいと実感できる授業づくりに取り組んでもらいたい。端末や新しい教育機器については、効果的に活用しつつ、教師の指導力も発揮できるよう取り組んでほしい。
たくましい子	・運動習慣の定着と体力の向上に向けた工夫・改善 ・児童の健康の基礎を培う健康教育及び食育の充実 ・生命の尊重を基盤にした安全・安心な学校づくりの推進	C	・年間を通した継続的な運動に取り組み、体力の向上を図る。 ・委員会活動を中心とした大縄大会や外遊び週間などにより、運動機会の促進を図る。	地域では、遊ぶ光景を目にしない。学校での継続的な取り組みによる体力向上、運動の習慣化が望まれる。親子でできる運動の機会があってもよい。けがについては、大きなけがでなければ、元気な子供の証である。大きなけがにならないように安全点検と事前指導に取り組んでもらいたい。
教師力	・自ら学ぶ意欲の育成をめざした指導法の工夫及び改善 ・教職員の専門性や実践的指導力を高める研修の充実 ・児童一人一人の教育的ニーズの把握と支援のあり方を追求した特別支援教育の充実 ・アセスや教育相談等を活用した児童の内面に寄り添った指導や信頼関係の構築	B	・教員同士の授業交流を活発に行い、授業実践力、指導力の向上に努める。 ・教科担当によるミニ研修の実施し、教職員の専門性や指導力向上に取り組む。	指導力向上のためのチーム神野小として、授業交流や研修の機会を重視しながら指導力の向上を図ってもらいたい。各教科担当としての専門性を高め、やりがいや楽しさを実感しながら、子どものため、ひいては生涯自信をもって教師人生を送るために、頑張ってもらえるよう期待する。
家庭・地域連携	・地域や保護者に対する、ホームページや学校だより、学年だより等での教育活動の積極的な発信 ・健やかな児童の育成に向けた家庭との連携 ・地域の人材や学校の特色を生かした体験活動の推進	A	・学校だより、学年だより等ホームページ上においても発信し、家庭や地域との連携を深める。 ・環境体験（水辺）や米作り等、地域の力をお借りしながら、児童の教育活動に活かせるよう地域連携の充実を図る。	よく取り組んでいる。地域や家庭の教育力の高さを活かした教育を今後も大切に、引き続き充実した教育活動を推進してもらいたい。子供だけでなく、保護者も地域と連携し、親子で参加する活動も必要。
教職員の働き方改革	・勤務時間の適正化に向けて、業務の合理化及び精選 ・定時退勤の完全実施及び勤務時間の縮減	C	・教育課程の見直しや授業時数の削減、職員会議の適正な運用に取り組み、学校における業務量の適切な管理と健康に向けた取組を進め、働きがいのある学校づくりを推進する。	先生方の努力にいつも頭が下がる。頑張っている先生方をしっかりと認めていくことが大切である。一方で、頑張っていることと無理をしていることは紙一重であるため、ブレーキをかけることも大事にしていただきたい。また、先生自身の時間も大切にしていただきたい。働き方改革は、教師の努力だけでは実現不可能であり、人材確保のため、行政の支援に負うところが大きい。